

いり え わん いま
入江湾、今むかし



税金を納めたあと、ここで
なますのぐうを踊ったとされる

ブンシヤ-足跡

かてかり
嘉手苺

すがま
洲鎌

- あざ
字
- ぎょうせいしゅうらく
行政集落
- しょうじゅうらく
小集落

けんどうやーばるせん
県道屋原線

入江出身で琉球
政府の副主席にまで
なつた与那達敏が
「県道」に昇格させた



「魚垣」
潮の流れを利用した
漁法

民謡
なますのぐう

入江集落にあつたとする
塩川邑、仲間邑が歿祥と
され、人頭税時代に役人
を喜ばせるために踊ったと
伝わる。

なますには
イカが合うかな
何に
置く?



料理で
もたす様子が歌われている



舟で漕ぎ出すと舟底に石が
ついたおりに音が鳴った。
天然の海ぶどうがこすれ音
だった。

カ子ツサ

よなは
与那覇

カ子チャ原

イザガー(イズガー)

水が豊富な
降りサ

なかまむすいてい
仲間邑(推定)

クバカ城跡

津波石

パチャガ崎と人頭税

宮古の人々を苦しめた人頭税。
その廃止運動の審議の場が
パチャガ崎。
入江の奥あたりに
構造が良かった?!

人頭税廃止運動ゆかりの地
城間正安住居跡



しおかむらすいてい
塩川邑(推定)

このあたりで
上布をさらしていた?



チヌ
カザミ
エセ...
何ぞもれた

パチャガ崎

唐船岩

展望台

津波石

スガ子

棚根漁港

唐船岩

元橋

海月の子苗を
海水が出たり入ったり
を繰り返す

ニシタナ子

北相根

ハイタナ子

南相根

外崎御嶽

たなね
棚根

旧バスのりば



このあたりは
よくタカ(ササバ)を
とっていた

イニ=海
サニ=3日

相根のインザニツ

宮古を海に流し五穀豊穡
を祈るムスロウと、
航海安全などを祈願して
集落総出で行く行事

この
角カ大会などで
盛り上がる!

一地←人岩

もともとの地名の意味は「人岩」。
方言に違字があてられて来た

ひとつじ
一地

入江公民館

いりえ
入江

人頭税廃止運動ゆかりの地
川満古吉頭彰碑

津波石

みやくに
宮国

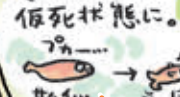
電報屋跡

足の下せんが海がうら!
泳ぎながら食べて食べた



足ど
おいしいの
を見分け
られた!

寒い冬は魚が
仮死状態に。
捕まえておねえ
ずきりしてきた



捕まえておねえ
ずきりしてきた

みやくに
宮国

197

海底ケーブル

1912(大正1)年
宮古-石垣間に
電信海底ケーブル
を布設。
約160km

葉茶
パチャガ崎と唐船岩

そのおかしくり、クバカ城を過ぎて
唐と密貿易が行われていた?
葉茶が崎:茶葉を扱っていた所
唐船岩:唐の船を係留した岩

かわみつ かねきち にんとう ぜいはい し うん どう
川満亀吉と人頭税廃止運動

明治の頃、嘉手苺集落に川満亀吉という人がいました。幼い頃から才能に長け、家のことや弟妹の面倒もよく見るしっかり者だと村中から評判を集め、23歳という若さにして嘉手苺村の総代に抜擢されました。

当時の宮古は、人頭税に苦しめられ、身分の差が激しく、農民は税を納めるために、寝る間も惜しんで働くような時代でした。

そんな中、亀吉は沖縄から黒糖づくりを広める目的で来た製糖技師の城間正安と出会います。ところが当時の人々は税として納められないサトウキビに関心がなく、普及がなかなか進みませんでした。そこで正安は技師をやめ、亀吉の住む嘉手苺に移り住んで自らサトウキビ作りを始めます。亀吉の計らいで正安は住居や土地を得て、妻まで迎えることができ、ふたりは友情を深めました。

そんなふたりは日頃から人頭税の制度に疑問を持っており、日々、人頭税をなんとかできないかと悩んでいました。

そこで、深夜に遠くは伊良部島や池間島まで何度も出向き、各地の総代に人頭税廃止の協力をお願いしました。その甲斐あって人目を忍んで入江湾のパチャガ崎に27名の総代が集まり、日本政府に陳情することが満場一致で決議されました。

ちょうどその頃、正安の製糖技師の友人の紹介で、真珠養殖のために新潟から来ていた中村十作と出会います。島の現状を知った十作は、東京の事情に詳しく、人脈もあることから東京の案内役を買って出ます。

こうして作戦を固めた一行は、請願のために東京へ出発しました。東京へは十作と正安、農民代表として西里蒲と平良真牛が赴き、亀吉は島で留守番役を担いました。

4人が請願に向かったことを知った役人たちは、正安が農民をたぶらかして税を減らそうとしていると、あの手この手で邪魔をしてみました。しかし留守番役の亀吉を中心とした総代たちは、団結して住民たちの気持ちを鼓舞し続けました。

その後、十作は何度も東京へ渡って陳情し、マスコミや政界の人々を巻き込んで、みごと帝国議会の可決を勝ち取り、1903年、266年に渡る悪税は幕を閉じました。

人頭税廃止には、多くの人の努力がありました。集落内に川満亀吉を

称える顕彰碑が建てられ、当時秘密の会合を繰り返したとされるパチャガ崎、さらに城間正安の住居跡といわれる場所にも、人頭税廃止に因んだ記念碑を建立しました。

参考『川満亀吉と人頭税人頭税廃止運動百周年記念』(1993)川満家親族会

にんとう ぜいはい ねんびょう
人頭税年表

- 1609(慶長14) 薩摩侵攻。琉球王府、薩摩の支配下に
- 1637(寛永14) 宮古・八重山で人頭税が始まる
- 1659(万治2) 年貢の総額を毎年一定額にする
- 1879(明治12) 廃藩置県に伴い琉球は沖縄県に
- 1884(明治17) 城間正安、製糖技師として那覇から宮古へ赴任
- 1892(明治25) 中村十作、真珠養殖事業で宮古へ
- 1893(明治26) 人頭税廃止請願のため、代表4人が上京
- 1895(明治28) 請願書が帝国議会で可決
- 1903(明治36) 人頭税廃止
- 1982(昭和57) 川満亀吉の顕彰碑建立

東京へ

- 正安: 通訳
- 十作: 道案内&人脈
- モリ&カマ: 農民代表
- トネ&亀吉: 留守番役

誰か一人でも欠けたら
 請願はなほはかた



川満亀吉顕彰碑



人頭税廃止運動ゆかりの地 城間正安住居跡



人頭税廃止運動ゆかりの地 パチャガ崎

じょう せき

クバカ城跡



いり え わん ちか いち しき ち かこ の づら いし
 入江湾近くに位置するクバカ城跡は、敷地を囲む野面の石
 づ の こ きちょう し せき ようせいきゆうき
 積みが残される貴重な史跡です。『雍正旧記(1727)』には、

「長さ31間(56.4m)横25間(45.5m)、門は末方(南西)に向か
 う」とあり、現存の石積みとほぼ一致します。また、城主は
 あ ず よ きょうりよくむ そう じん ぶつ
 クバカ按司と呼ばれる強力無双の人物
 つた た きたがわ
 であったと伝えられます。城跡北側に
 く ば か がー じょうがいみなみ
 は久場川井泉があり、城外南側に按司
 まつ う たき
 を祀ったクバカ御嶽があります。



クバカ按司のおもしろ伝説

巨大シャコガイ



クバカ按司の剛腕は大変有名で、
 遠く八重山まで知られていました。
 ある日、八重山の力自慢が宮古まで
 けつとう けつとう
 決闘にやってきました。按司は「暑
 いから水浴びをしよう」と誘い、大
 シャコ貝で水を汲み、豪快に浴びま
 した。八重山の力自慢も真似てみま
 したが、シャコ貝を持ち上げること
 すらできず、とうとう決闘を諦めて
 かえ 帰っていきました。

大きな竹



ある時、嘉手苅と川満の按司がク
 バカ按司を訪ねてきました。クバカ
 按司はおもむろに生えていた大きな
 竹を引き抜き、手で割いて便所へ
 持っていきました。それでお尻を拭
 くというのです。川満の按司も負け
 じと竹を抜こうとしますが、結局抜
 くことはできませんでした。

ウプガムもち



クバカ按司と大変仲の良い喜佐真
 按司は、クバカ按司が粟とウプガム

(タカキビ)で作ったウプガムもちを
 た 食べているのを知り、「どんなにひ
 もじくてもそんなまずいものは食べ
 ない」と言い切ります。そこでクバ
 カ按司は喜佐真按司を魚釣りに誘
 い、昼食もとらずに釣りをしまし
 た。喜佐真按司はお腹が減ってたま
 りませんが、クバカ按司は「ウプガ
 ムもちしかない」とひとり頬張りま
 す。空腹に負けた喜佐真按司は、結
 局ウプガムもちを分けてもらい「美
 味しいなあ!」とつい口走ってしま
 いました。

美しいうんこ



ある日、喜佐真按司と「どっちが
 綺麗なうんこを出せるか」勝負をす
 ることに。喜佐真按司は旨いものを
 食べれば良いうんこが出るはずとご
 馳走ばかり食べて過ごし、クバカ按
 司はサツマイモを食べてその日に備
 えました。いよいよ勝負の日。クバ
 カ按司は美しい渦巻状のうんこでし
 たが、喜佐真按司はご馳走の食べ過
 ぎで下痢。「何をやってもあなたに
 は勝てない」と笑って言いました。

参考:『宮古島記事』(1752)、『宮古お嶽集』(1980)、
 『下地町の文化財』(2000)

上野・野原コース



コース全長約 4 km
 所要時間: 徒歩 1.5 時間 車 30 分

- > 徒歩コース
- - - 大嶽城跡 指定範囲
- - - 大嶽公園の植物群落 指定範囲
- サティパライの順路



みやこ ちかひちば
宮古家畜市場

みやこ しまし
宮古島市

みやこ じま し
伝統工芸品センター P51

みやこ じま うえ
宮古上布 P48

のぼる だま いし
野原岳の霊石 P43

野原岳一帯は
日本兵の堀、土壕が
いくつもある

のぼる じょう えん
大嶽公園の植物群落 P42

START

のぼる
野原のサティパライ P46

のぼる
野原のマスターリヤー P44

のぼる とう かん かん
野原公民館

のぼる だいきょう せき
大嶽城跡 P40

ほへい だい さん れん たい せん ぼつ しょう
歩兵第三聯隊戦没者慰霊碑

ツルギミ(ザウカニ)
常緑のつばき科の木のつぼみ
葉や枝などは、魚鱗片と
おおわれている

探してみよ!
何を意味するかな?

のぼる とう さん けん
野原コミュニティ公園

サルカケミカン
常緑の性体木

たかさわ よし と かの
高澤義人歌碑

ほしゅう へい
「補充兵われも飢えつつ
餓死兵の骸焼きし宮古よ
八月は地獄」

ナカミボクジョウシ
常緑性体木
石灰岩の9かい木まで
よく見かけます

ヤブニッケイ
5~10mの常緑高木
葉をもみと
かすかに
シヤモンの香り

ハイゼスカイは
色々種類が
たくさん!

※集落内の拝所に許可なく立ち入ることは禁じられています

うぶ たき じょう せき

大嶽城跡



うぶ たきじょうせき せい き なか ごろ じょうせき ちゅうおう い ち
大嶽城跡は14世紀中頃の城跡で、宮古島のほぼ中央に位置
の ばる だけ きゅうりょうじょう よう せいきゅうき
する野原岳の丘陵上にあります。『雍正旧記(1727)』には
「城長58間(104.4m)、54間(97.2m)、門末の方(南西)に向か
う」と記されています。戦後の米軍施設建設などを経て、
のこ いしづ げんざい
残っていた石積みも現在はなくなっ
ています。城跡周辺には、按司が掘った
しゅうへん あず ほ
とされるふたつの井戸や、按司の3人
い ど
の息子を祀る御嶽が残されています。



のうぎょうしん おとこ 農業神になった男 ピギタリ



うぶ たきむら じょうしゅ あず
大嶽村の城主である大嶽按司
かしこ ぶりよく た け のうこう
は、とても賢く武力に長け、農耕
ぼくちく ひろ むらびと した
と牧畜を広め、村人からとても慕
われていました。按司には3人の
むすこ じなんちる あず さんなん
息子がおり、次男知呂按司と三男
かにまるかに あず ちち に ぶんぶ
金丸金按司は、父に似て文武に長
わかも の ちょうなん
けた若者でしたが、長男のピギタ
リは争いごとを嫌い、農業を好む
あらし きら この
性格でした。

ある日、父大嶽按司が突然世を
さ のこ しる たく
去り、遺された城は息子たちに託
されますが、ピギタリは城を出て
のうみん く
農民として暮らしていくことにし
ました。

そんな折、当時島中を荒らし
まわ よ な は いちだん
回っていた与那覇ばらの一団が、
突然城を攻撃してきました。弟た
ちはずぐさま村人を野原嶽の山
ちょう ひなん
頂、カシフガーラに避難させ、父
の遺した策に従い、次男は城の東
の門を、三男は西の門を守りまし
たが、みな力尽きて殺されてしま
いました。そしてカシフガーラに
かく じゅうみん よる みず もと
隠れていた住民も、夜に水を求め

い ど こ
て井戸にやってきた子どものあと
をつけれ、みな殺しにされてし
まいました。

そんな惨劇の中、ひとりだけ生
き残った男がいました。男はやまづ
いに走り、昼は洞窟で眠り、夜に
しょく あさ しゅうらく ひがし
食を漁り、集落から東に2kmほど
はな ばり お つ
離れたウブアラス原に落ち着きま
した。

その後、大嶽村の惨事を哀れに
おも となり しんざと しゅちょう たす
思っていた隣の新しい村の首長の助
けもあって、男は首長の孫娘ミガ
マラと夫婦になって村立てをし、
なん じょ めく さい てんじゅ
7男7女に恵まれ、100歳の天寿
まっと つた
を全うしたと伝えられています。

みやこしましよみんし
参考『宮古島庶民史』(1957)

野原集落では、この男をピギタリだ
とも伝えています。男が住んでいた屋
敷跡には大御嶽が建てられ、ピギタリ
ゆうぬす しょう まつ
世又主と称した農業神が祀られていま
す。また城跡の東側には次男知呂按司
なか
を祀った中御嶽、西側には三男金丸金
イズ
按司を祀った西御嶽があります。

うぶ たき こう えん しょくぶつ ぐん らく
大嶽公園の植物群落



この植物群落は、大嶽城址公園とその東側斜面に位置しています。一定方向から吹き付ける風の影響で植物が高く生育しづらい環境にあり、海岸にある崖でよく見られる風衝景観が広がります。群落内では、ヤブニッケイ、バクチノキ、ナテンカズラをはじめ、様々な植物が生育しています。また、数多くの陸産貝類の固有種や貴重種が確認されています。



の ばる だけ たま いし
野原岳の霊石



この霊石は、大嶽按司が城の守護神として造ったと伝わります。沖縄には石に霊が宿るという信仰があり、地元ではここを「タマザラ御嶽」と呼びます。もともと城があったとされる山頂にありましたが、戦後、米軍施設建設時に現在の場所に移されました。底面の直径134cm、上面の直径110cm、高さ135cmで、硬い琉球石灰岩を美しい円錐台に仕上げられています。当時の石工技術を見てとれます。



野原のマストリヤー



野原のマストリヤーは、旧暦8月15日に行われる豊年祭です。マストリヤーの起源については不明ですが、当時の過酷な人頭税を完納できた喜びや、翌年の豊年を予祝する気持ちなど、様々な思いから創りだされたという説があります。

月明かりの中、威勢よい掛け声にあわせ棒を振る男性の後を、ゆっくり厳粛に歌い踊る女性が続く様子は、宮古諸島の芸能の中でも独特です。

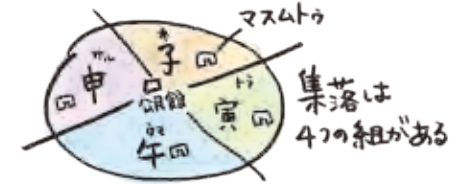


満月の下のマストリヤー

旧暦8月15日は「十五夜」といわれ、中秋の名月にあたります。月明かりの下、4つのマストムツ*ごとに公民館に集まり、マストリヤーが始まります。

*マストムツ：貢租を集めていた場所

7:00 月御嶽と公民館にツカサがお供えとお祈り
9方 各家庭でお月見
20:30頃 各マストムツ(杵元)で宴会



21:30頃 公民館で踊りと宴会



宮古島のパーントウ (野原のサティパライ)

ユネスコ無形文化遺産

2018(平成30)年11月29日登録

来訪神：仮面・仮装の神々



野原のサティパライは、旧暦12月の最後の丑の日に行われる厄祓いの祭祀です。サティは里、パライは祓いで「里の厄祓い」を意味します。女性と子どもたちのみの行事で、夕方になるとパーントウの面を付けた少年を先頭にして集落を練り歩き、悪霊を追い祓います。

野原のサティパライは、島尻のパーントウとともに2018(平成30)年、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。



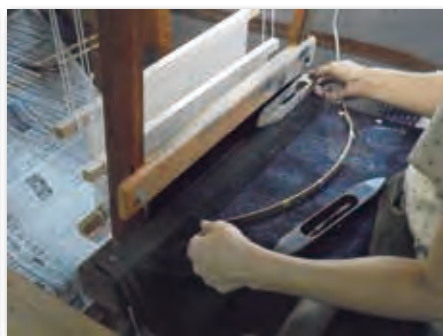
サティパライ=里祓い

パーントウとは、怪物や化物を表す言葉ですが、祭祀に登場することで、厄祓いと豊穰を予祝する来訪神になります。

野原のパーントウの面がいつ、どのようにもたらされたかは、はっきりしていません。



みや こじょう ふ
宮古上布



写真：宮古上布保持団体

みや こじょうふ ちょま げんりょう あさおりもの てう いと
宮古上布は苧麻を原料とする麻織物です。手績みによる糸
つくり、拵括り、染め、織り、砧打ち(仕上げ加工)など、それ
ぞれの工程を分業制で行い、すべて手作業です。16世紀末に
す がまゆんちゅ つと しんえい つま いなし あやさび ふ おう
洲鎌与人を務めた真栄の妻の稲石が、織り上げた綾錆布を王
ふ けんじょう はじ かん
府に献上したことが宮古上布の始まりとされます。1637(寛
えい にんとうぜい こうのう ふ さだ ぎじゅつ はつ たつ
永14)年に始まった人頭税で貢納布に定められ、技術が発達し
ていきました。1903(明治36)年、人頭税廃止後の自由生産に
しゅざんぎょう はつてん いま けいしやう
より島の主産業として発展し、今に継承されています。

ちょま いと てう
苧麻糸手績み



写真：宮古苧麻績み保存会

イラクサ科の苧麻を原料とする苧麻糸は、国の重要無形文
か ちょま げんりょう く に じゅうよう むけいぶん
化財である宮古上布の材料です。植物の繊維を撚り繫いで糸
かざい みや こじょうふ ざいりょう しょくぶつ せんい よ つな
をつくることを「績む」と言い、苧麻糸手績みは苧麻の繊維を
つ く う い
績む手技です。苧麻刈り、苧麻裂き、苧麻績み、撚り掛け、
て わざ ぶー が ぶー さ ぶー ん よ か
経木掛けの5つの工程からなり、苧麻の茎の表皮から繊維を
かし こうてい くき ひょうひ
とって細く裂き、手で績んで長い糸を作ります。この手技は
と ほそ なが
宮古上布の保存と伝承に欠かせない技術であり、宮古苧麻績
ほぞん でんしやう か ぶー ん
み保存会による後継者育成が取り組まれています。
こう けいしやくせい と く